

福島原発事故後、急速に耳目を集めるようになったメガソーラー（大規模太陽光発電所）は、佐賀県内でも6カ所で計画が具体化している。

その中でもユニークなのが、県が神埼市内の工業団地予定地跡に計画する「吉野ケ里メガソーラー」。国営吉野ケ里歴史公園に隣接し、完成すれば弥生時代の風景をバックにエコロジーの先端施設が出現する。

しかし、それ故に吉野ケ里を大切に考える人々からは異論が上がる。市民団体「吉野ケ里遺跡全面保存会」（江永次男会長）は「周辺の景観を損な

帳楽憂



エコと遺跡

う上、予定地では遺跡調査も終わっていない」と、計画撤回を求める。

保存会のメンバーで、昨年まで県議を務めた太田記代子さん(76)は「脱原発につながるメガソーラーは大賛成。でも建設予定地は、この地域に広がる縄文時代から中世までの遺跡群の真ん中。そんな所につくってはいけない」と訴える。

確かに、他に土地は幾らでもあるはずで、中止を求める人たちの気持ちを一蹴していいのかと思う。強引に進めるのでは、原発を推進してきた姿勢と変わらない。

【上田泰嗣】